

平成21年度 情報モラル調査結果

<実施対象児童生徒数>

岐阜県内小学生	21,136人（5・6年生 各学校1クラス抽出）
岐阜県内中学生	17,447人（1・2・3年生 各学校1クラス抽出）
岐阜県内高校生・特別支援高等部生	8,035人（1・2・3年生 各学校1クラス抽出）

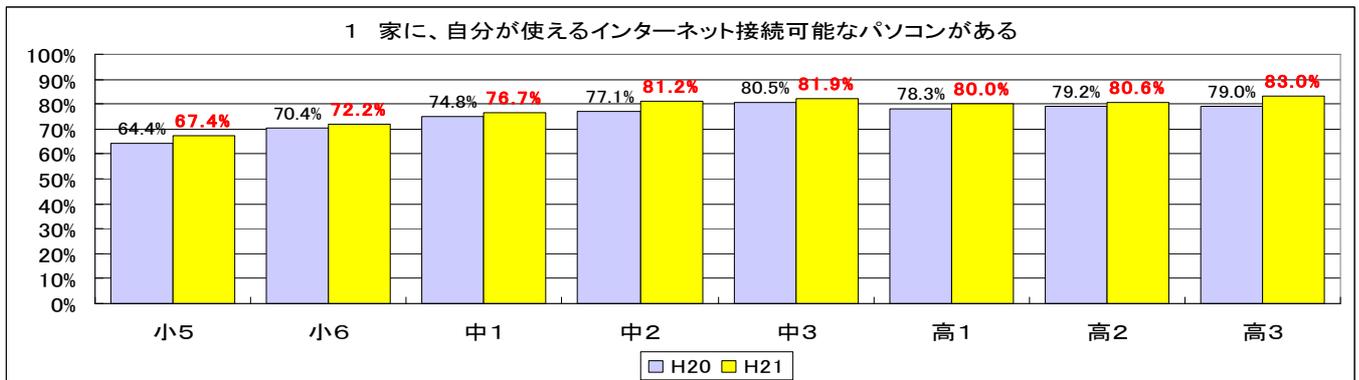
<実施期間>

平成21年12月

設問1

家に、インターネットに接続できて、あなたが使えるパソコンがありますか。

設問1	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
ある	67.4%	72.2%	76.7%	81.2%	81.9%	80.0%	80.6%	83.0%
ない	32.6%	27.8%	23.3%	18.8%	18.1%	20.0%	19.4%	17.0%

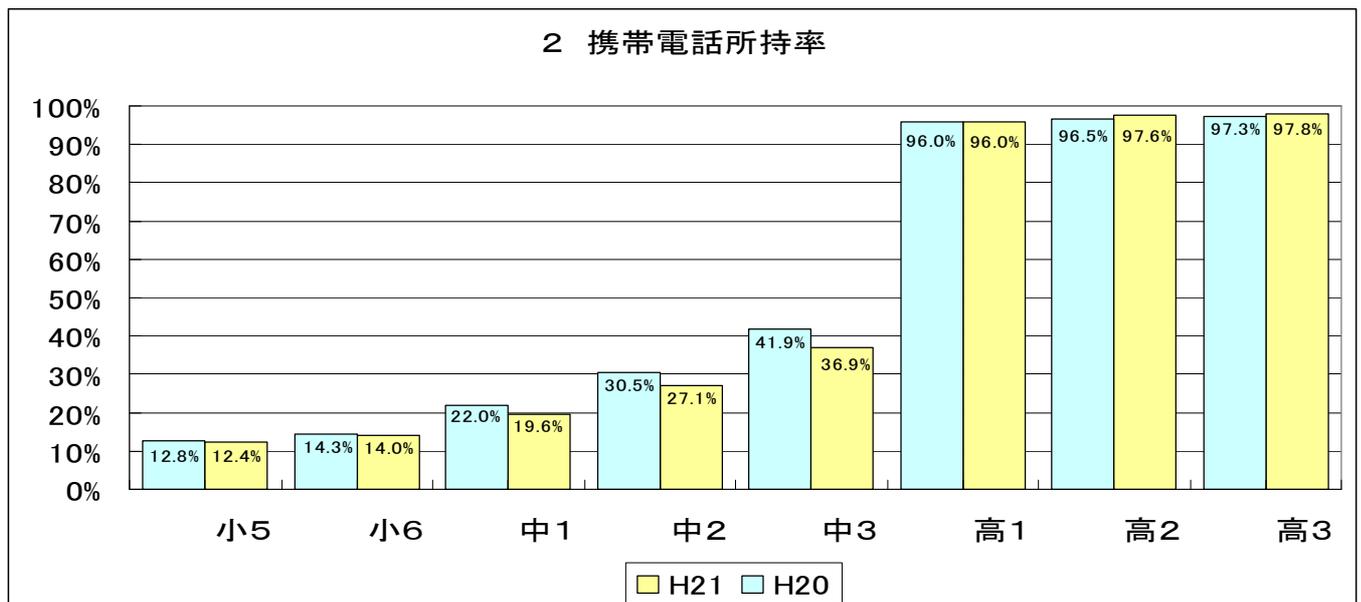


- ◆ すべての学年で、微増している。家庭におけるインターネットの使用が広がり続けている。
- ◆ 回線が高速になり、音楽や動画の配信が行いやすくなっている。著作権等の指導が必要である。
- ◆ 家庭の中で、「一人でパソコンを使う」ことに対する配慮（パソコン用フィルタリング等）が必要。

設問2

あなたは、自分の携帯電話を持っていますか。

設問2	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
はい	12.4%	14.0%	19.6%	27.1%	36.9%	96.0%	97.6%	97.8%
いいえ	87.6%	86.0%	80.4%	72.9%	63.1%	4.0%	2.4%	2.2%



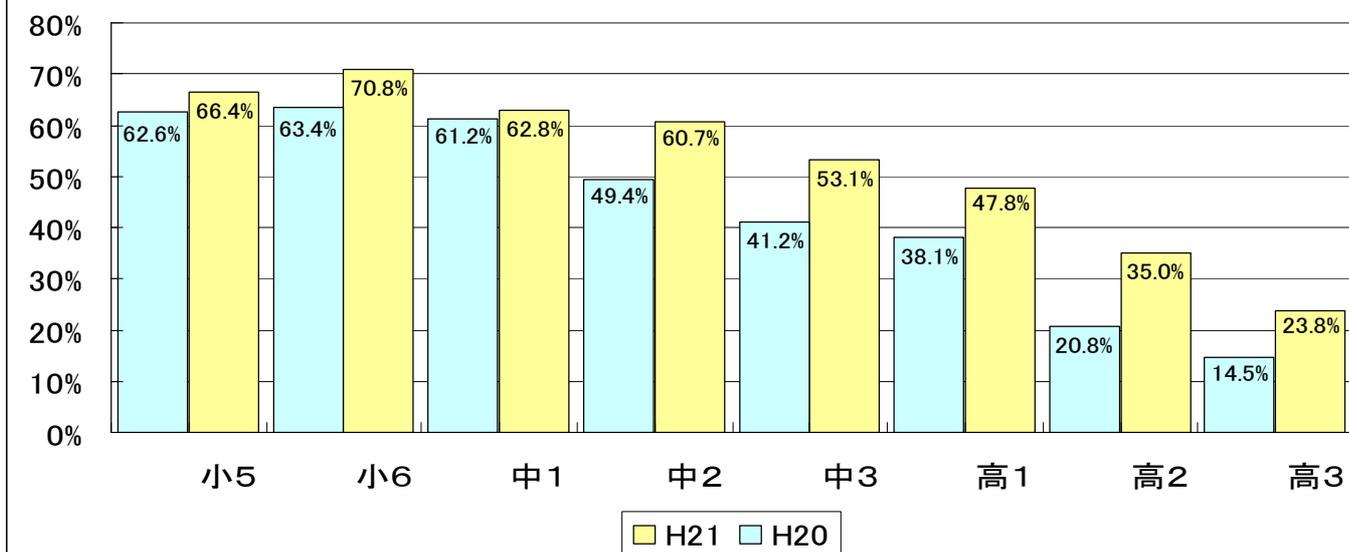
- ◆ 中学校では、すべての学年で所有率が下がっている。保護者、児童生徒共に、本当に必要か「考えて購入する」姿勢が広がってきている。
- ◆ 小学校の早い時期から携帯を持つ児童に対し安全な使用のための指導が重要である。

設問3

あなたの携帯電話はフィルタリングしていますか？

設問3	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
はい	66.4%	70.8%	62.8%	60.7%	53.1%	47.8%	35.0%	23.8%
いいえ	33.6%	29.2%	37.2%	39.3%	46.9%	52.2%	65.0%	76.2%

3 フィルタリング使用率



- ◆ すべての学年でフィルタリングの使用率が増加している。「フィルタリングをすることは、自分を守ることになる」という指導の広がりを感じることができる。
- ◆ 学年が進むにつれて、「フィルタリングを解除する」傾向が続いている。保護者に対して、フィルタリングの必要性をさらに啓発していくことが重要である。

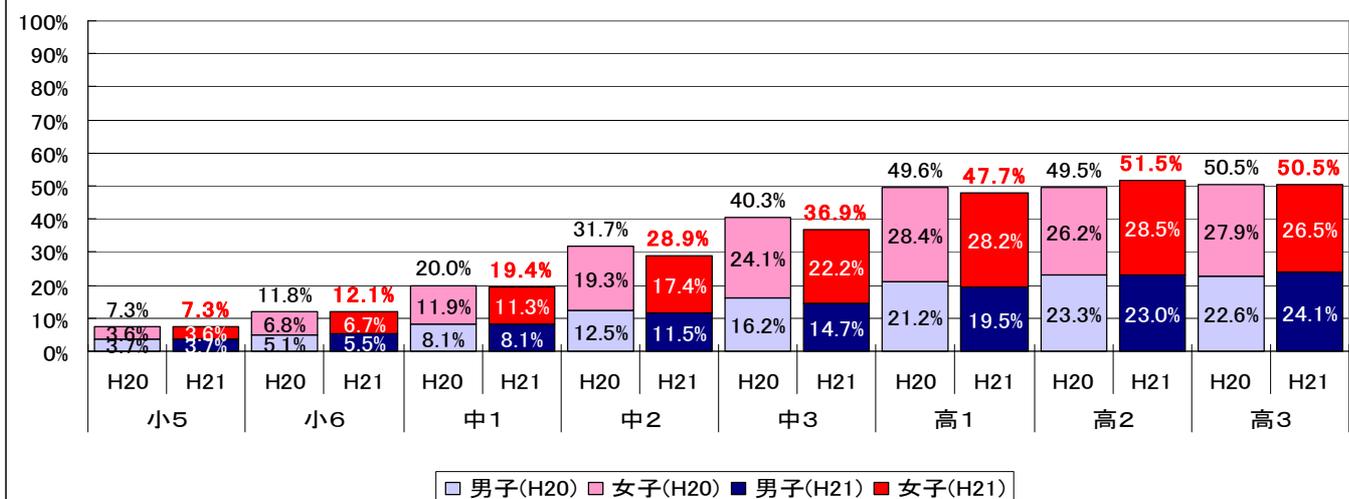
設問4

あなたは、インターネットや携帯電話の掲示板に書き込みをしたことがありますか。

「はい」と答えた男女の比率

設問4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
男子	3.7%	5.5%	8.1%	11.5%	14.7%	19.5%	23.0%	24.1%
女子	3.6%	6.7%	11.3%	17.4%	22.2%	28.2%	28.5%	26.5%
全体	7.3%	12.1%	19.4%	28.9%	36.9%	47.7%	51.5%	50.5%

4 掲示板への書き込みをしたことがある



- ◆ 学校裏サイト等の指導が多く、中学校での「掲示板利用の低下」が見られる。
- ◆ 女子が書き込みの経験が多いという傾向が続いている。掲示板に学校名やニックネーム、写真等を自分自身で投稿し、公開しているケースも多く見られる。
- ◆ 「誰も見ていないから…」という安易な書き込みが、自らを危険にさらしていることを指導する必要がある。

※表中の男女別数値は、内訳です。小数点以下第2位の四捨五入のため全体と誤差がある場合があります。

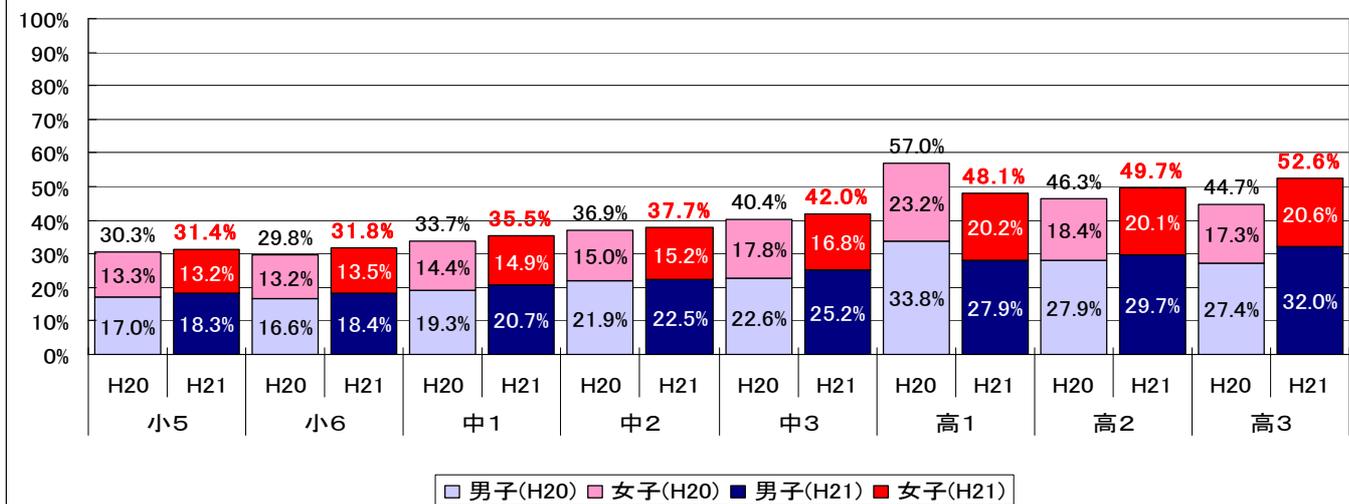
設問5

あなたは、オンラインゲームをしたことがありますか。

「はい」と答えた男女の比率

設問5	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
男子	18.3%	18.4%	20.7%	22.5%	25.2%	27.9%	29.7%	32.0%
女子	13.2%	13.5%	14.9%	15.2%	16.8%	20.2%	20.1%	20.6%
全体	31.4%	31.8%	35.5%	37.7%	42.0%	48.1%	49.7%	52.6%

5 オンラインゲームをしたことがある



- ◆ オンラインゲームの使用は年々微増している。特に、男子の利用が多く、ゲームの中で「知らない誰か」とメール等で連絡を取り合ったりする「ダイレクトコンタクト」が行われる場となっている。
- ◆ 「ケータイゲーム」の利用は、「携帯依存」への入り口のなることが多く、健康面からも指導が必要である。

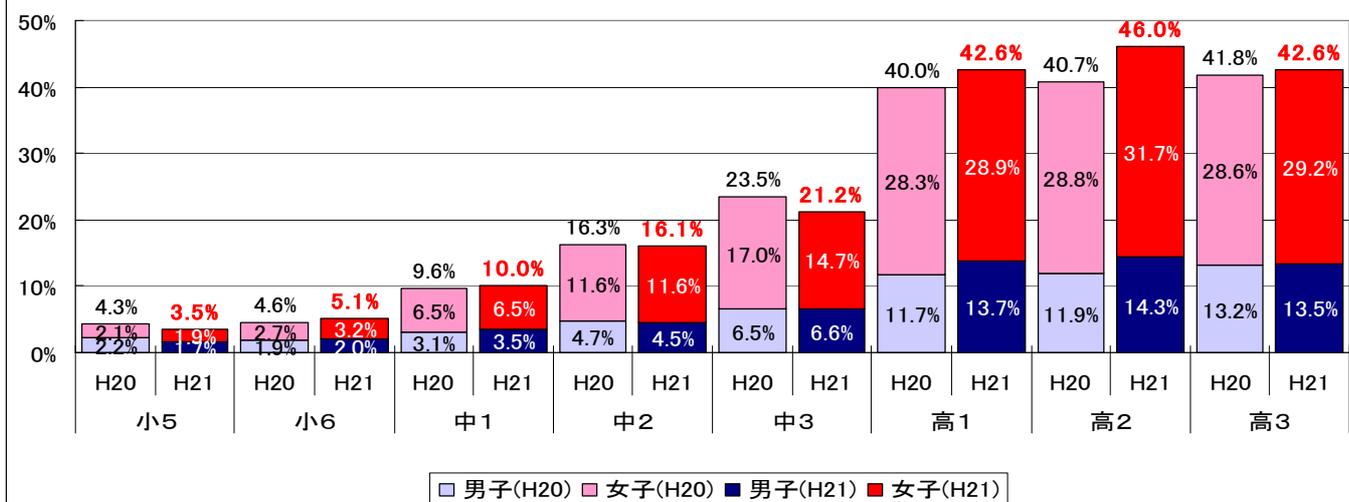
設問6

あなたは、携帯電話やパソコンから見る事ができる自分のホームページ(ブログ・プロフィールを含む)を持っていますか。

「はい」と答えた男女の比率

設問6	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
男子	1.7%	2.0%	3.5%	4.5%	6.6%	13.7%	14.3%	13.5%
女子	1.9%	3.2%	6.5%	11.6%	14.7%	28.9%	31.7%	29.2%
全体	3.5%	5.1%	10.0%	16.1%	21.2%	42.6%	46.0%	42.6%

6 自分のホームページ(ブログ・プロフィールを含む)をもっている



- ◆ 利用率は、小中学生ではほぼ横ばいかやや減少傾向。しかし、高校生ではどの学年でも増加傾向にある。
- ◆ 自分だけでなく、友人の写真や名前などを安易に公開している例が後を絶たない。制服、部活動のユニホームなど、個人を特定される可能性の高い情報を決して公開しないよう指導が必要である。
- ◆ 女子の利用が依然として高い割合である。友人だけでなく、「見知らぬ誰か」も自分の公開した写真や文章を見ていることを気づかせ注意を促す必要がある。

※表中の男女別数値は、内訳です。小数点以下第2位の四捨五入のため全体と誤差がある場合があります。

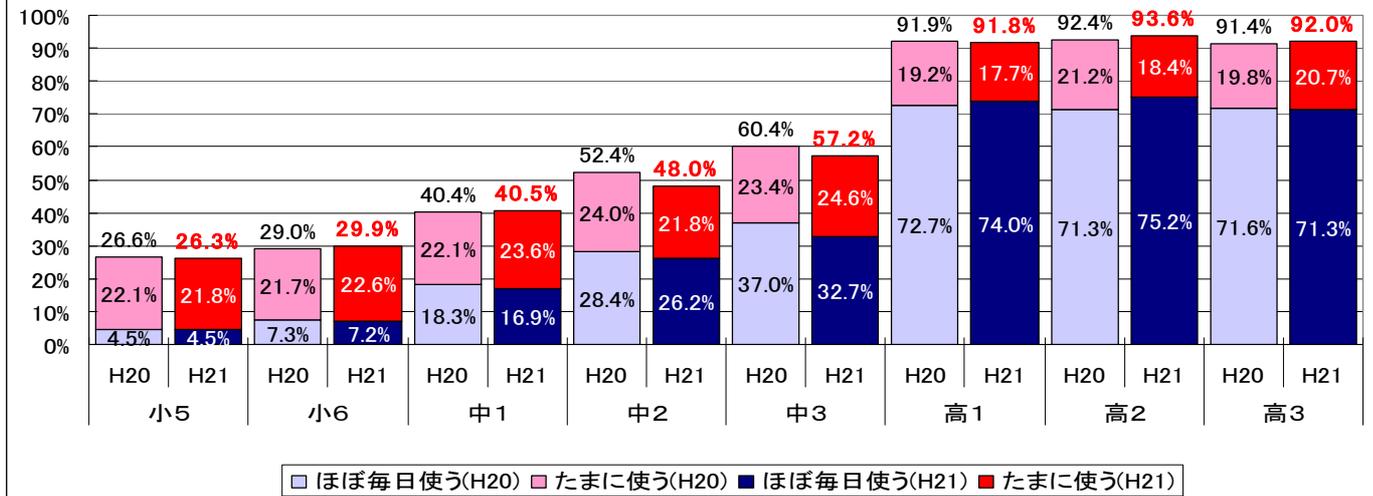
設問7

ホームページを見たり、電子メールをしたり、掲示板を使ったりするために、携帯電話をどれくらい使いますか。

携帯電話をメールやインターネットに利用する頻度

設問7	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
ほぼ毎日	4.5%	7.2%	16.9%	26.2%	32.7%	74.0%	75.2%	71.3%
たまに	21.8%	22.6%	23.6%	21.8%	24.6%	17.7%	18.4%	20.7%
全体	26.3%	29.9%	40.5%	48.0%	57.2%	91.8%	93.6%	92.0%

7 携帯電話をメールやインターネットに利用する頻度



- ◆ 毎日使う割合が、多くの学年で減少傾向が見られる。「必要最小限の利用」を今後も徹底することが重要である。
- ◆ 小学校段階で既に1時間以上利用することについて保護者会等で話題にしていくことが重要である。

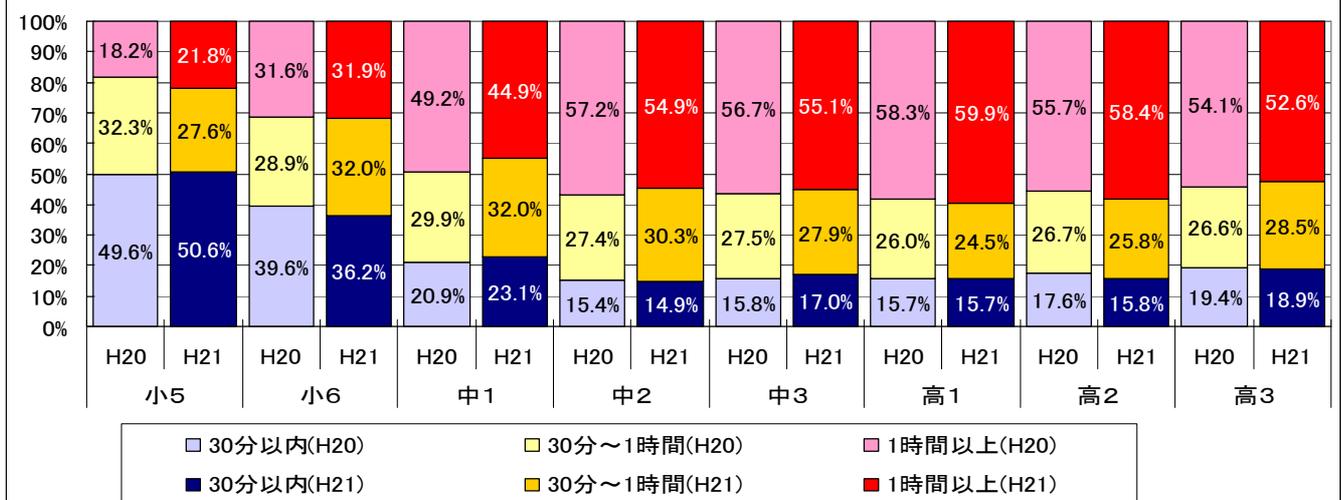
設問8

使う時間は1日当たりどれくらいですか。
 (「ほぼ毎日」と答えた人)

「ほぼ毎日」と答えたうち、1日の利用時間(H21のみ)

設問8	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
30分以内	50.6%	36.2%	23.1%	14.9%	17.0%	15.7%	15.8%	18.9%
30分～1時間	27.6%	32.0%	32.0%	30.3%	27.9%	24.5%	25.8%	28.5%
1時間以上	21.8%	31.9%	44.9%	54.9%	55.1%	59.9%	58.4%	52.6%

8 7で「ほぼ毎日」と答えたうち、1日の利用時間



- ◆ 中学生の段階で、徐々に「携帯依存」の傾向が増加していくことが分かる。この段階で、「1通のメールにかかる時間」、「1日50通メールのメールをした場合、3年間でどれだけ時間を使うか?」など、具体的に考えさせる指導が必要である。
- ◆ 小学校段階で既に1時間以上利用することについて保護者会等で話題にしていくことが重要である。

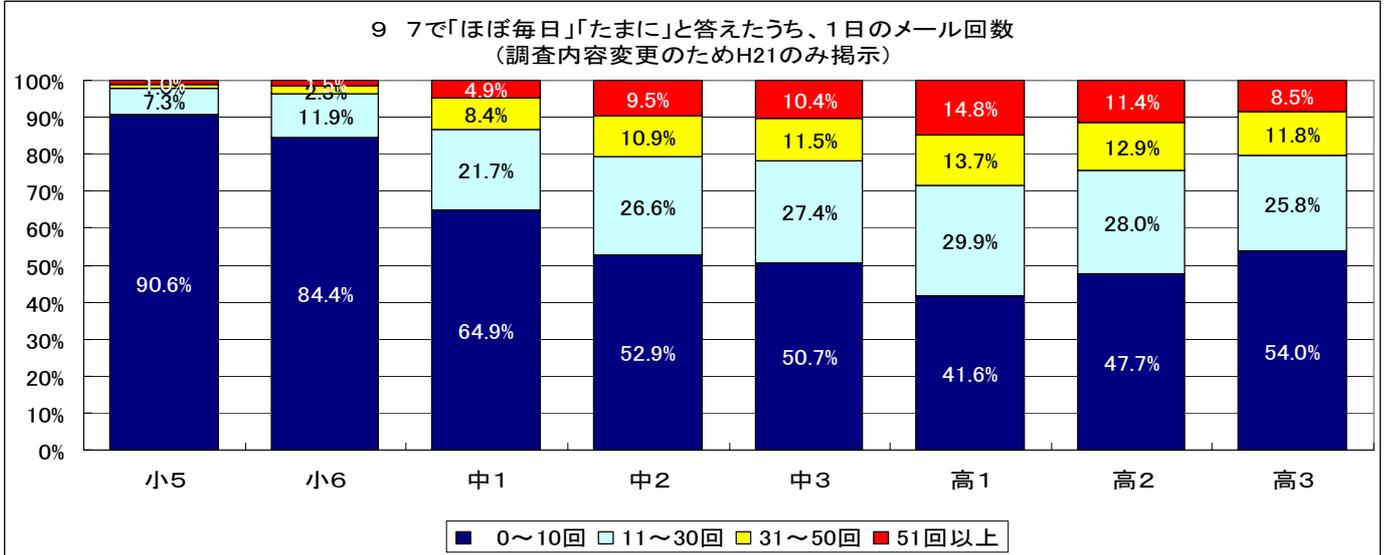
※表中の男女別数値は、内訳です。小数点以下第2位の四捨五入のため全体と誤差がある場合があります。

設問9

電子メールは1日に何回ぐらい使いますか。(送信や受信ごとに1回と数える)

1日のメール回数(調査内容変更のためH21のみ揭示)

設問9	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
0~10回	90.6%	84.4%	64.9%	52.9%	50.7%	41.6%	47.7%	54.0%
11~30回	7.3%	11.9%	21.7%	26.6%	27.4%	29.9%	28.0%	25.8%
31~50回	1.0%	2.3%	8.4%	10.9%	11.5%	13.7%	12.9%	11.8%
51回以上	1.0%	1.5%	4.9%	9.5%	10.4%	14.8%	11.4%	8.5%



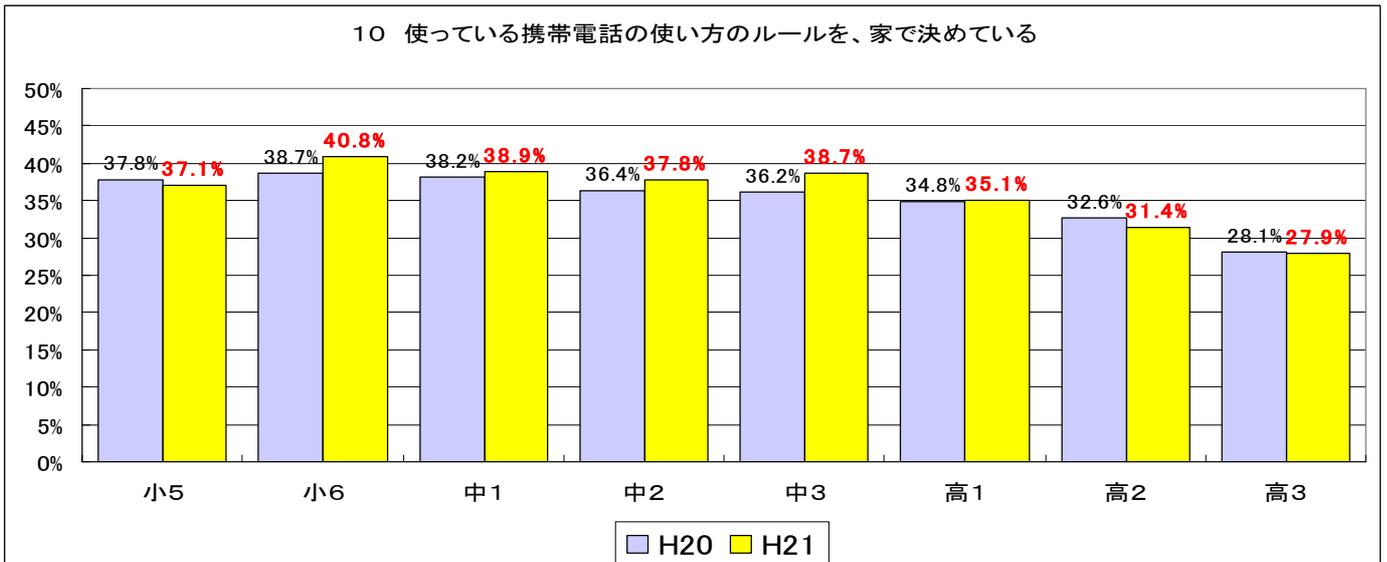
- ◆ メール利用が急激に増えるのは、中学1年生の時期であることが分かる。この時期に、メールの利用に関するマナーやルール、危険性や危険から身を守る方法を、事例をもとに具体的に指導する必要がある。
- ◆ 小学校では、被害者にならないための指導(メールの危険性等)を早い段階から行う必要がある。

設問10

あなたの家では、携帯電話の利用のしかた(利用時間や利用料金など)は決められていますか。

携帯電話について、家庭で使い方のルールを家で決めている

設問10	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
はい	37.1%	40.8%	38.9%	37.8%	38.7%	35.1%	31.4%	27.9%



- ◆ 家庭でのルールづくりについて小学校・高等学校ではほぼ横ばい、中学校では微増している。
- ◆ 依然として半数以上の家庭で「ルール」を明確にしないまま利用されている。保護者会、地域社会での普及啓発を継続して、「家庭の役割」を保護者と共に考えることが必要である。

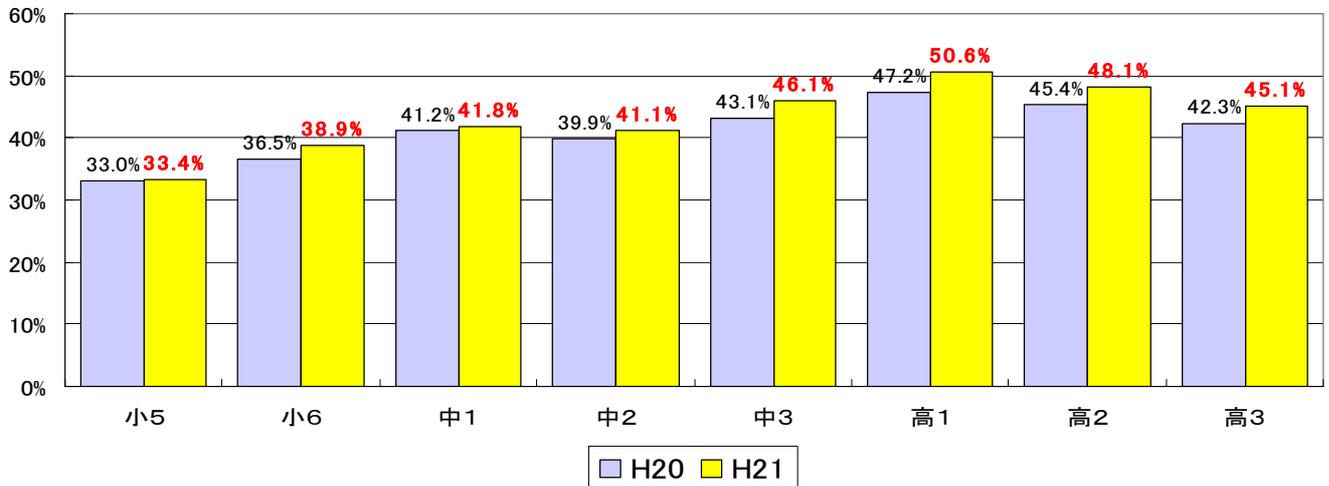
設問 1 1

あなたは、家庭で情報モラルやマナーについて話を聞いたことがありますか。

家庭で情報モラルや携帯電話のマナーについて話を聞いたことがある

設問11	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
はい	33.4%	38.9%	41.8%	41.1%	46.1%	50.6%	48.1%	45.1%

11 家庭で情報モラルや携帯電話のマナーについて話を聞いたことがある



- ◆ 学校だけでなく、社会の様々な機関から配布されるリーフレットや地域での研修会等によって、すべての学年で、家庭の意識は高まってきている。
- ◆ 大半の子どもたちが「携帯デビュー」する、高校1年生時については、調査開始以来初めて半数を超える家庭で話題に取り上げられるようになってきた。学校・家庭・地域社会が「総掛かり」となって児童生徒とその保護者に働きかけ続けていった成果である。今後も、継続的に指導と普及啓発を進めていくことが重要である。

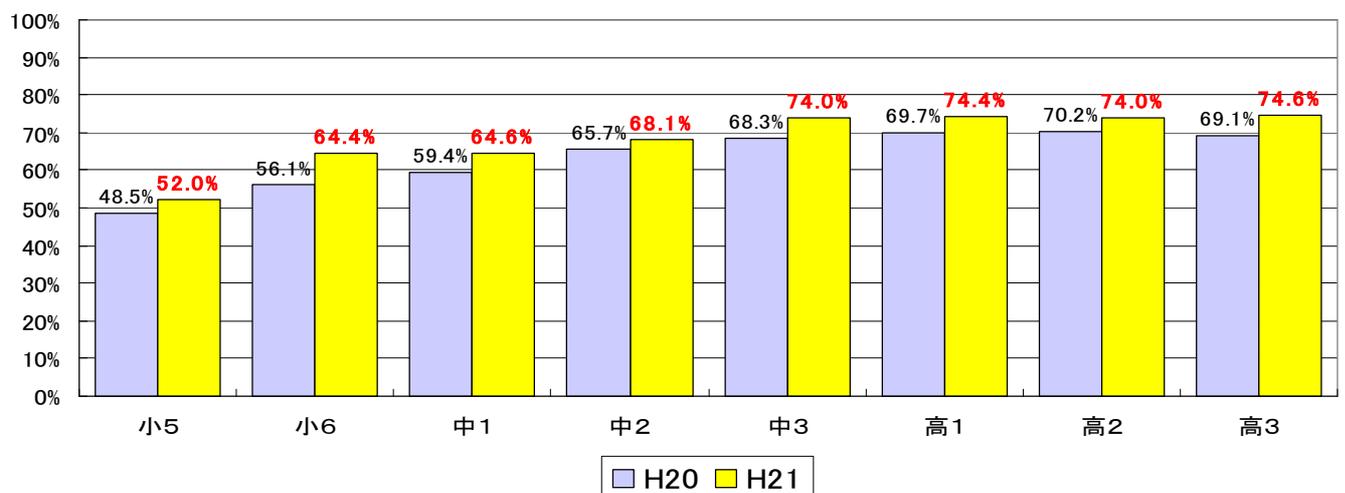
設問 1 2

あなたは、学校で情報モラルやマナーについて勉強したことがありますか。

学校の授業で情報モラルや携帯電話のマナーについて勉強したことがある

設問12	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
はい	52.0%	64.4%	64.6%	68.1%	74.0%	74.4%	74.0%	74.6%

12 学校で情報モラルや携帯電話のマナーについて勉強したことがある



- ◆ すべての校種で情報モラル関連指導の広がりが見られるようになってきた。高等学校・特別支援学校では、すべての学年で7割を超え、中学校もそれに迫る勢いで指導が行われている。
- ◆ 小学校における指導をさらに充実していくと同時に、「禁止するだけの指導」ではなく、「よりよく利用するために『考えさせる』指導」を目指していく必要がある。

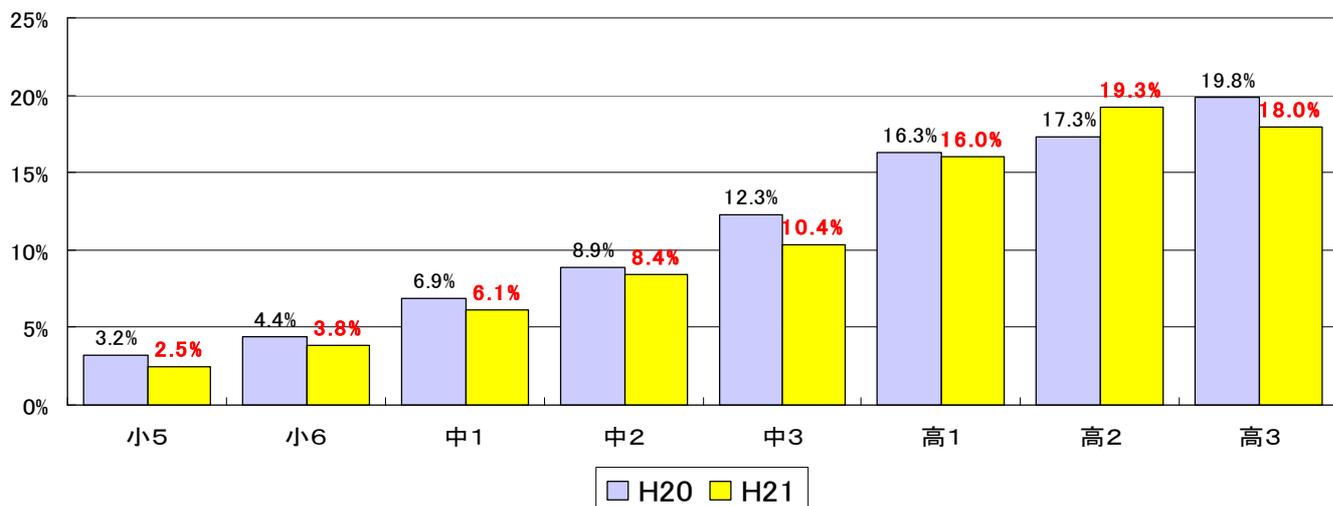
設問 13

あなたは、インターネットや携帯電話のメールや掲示板などで被害を受けたり、いやな思いをしたりしたことがありますか。

携帯メールや掲示板などで、被害を受けたり嫌な思いをしたことがある

設問13	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
はい	2.5%	3.8%	6.1%	8.4%	10.4%	16.0%	19.3%	18.0%

13 携帯メールや掲示板などで、被害を受けたり嫌な思いをしたことがある



- ◆ 被害を受けた率が大半の学年で減少傾向にあり、各学校での指導が「児童・生徒の利用の姿」となって現れている部分である。
- ◆ 今後は、一人でも被害を受ける児童生徒を減らしていくために、「フィルタリングの積極的利用」といった身を守るための指導、被害にあいそうになった時の「対処法や相談体制」の充実が重要である。

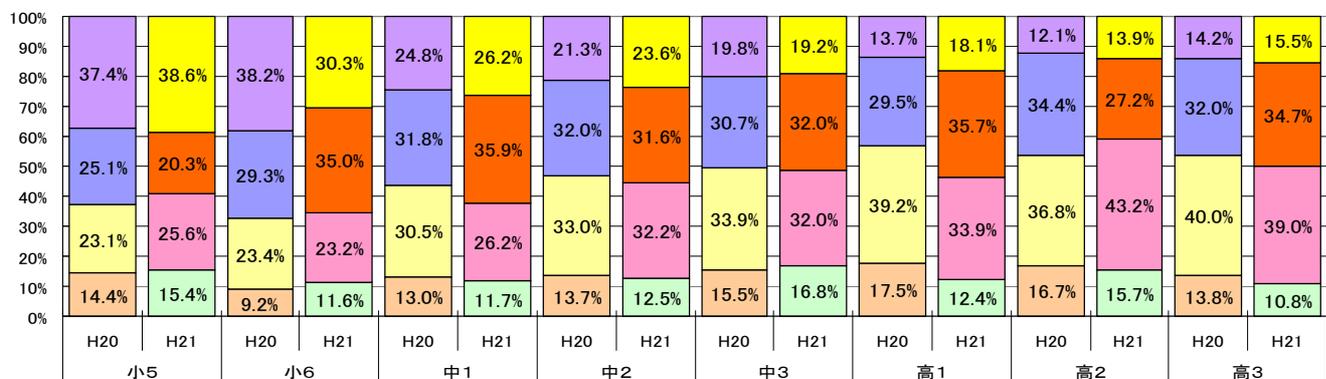
設問 14

被害を受けたとき、どうしましたか。(13で、「被害を受けたことがある」場合)

被害を受けたとき、どうしましたか。

設問14	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
どうしていいのかわからなかったため、そのままにした	15.4%	11.6%	11.7%	12.5%	16.8%	12.4%	15.7%	10.8%
何もしない方がいいと思って、そのままにした	25.6%	23.2%	26.2%	32.2%	32.0%	33.9%	43.2%	39.0%
解決方法を知っていたので自分で解決した	20.3%	35.0%	35.9%	31.6%	32.0%	35.7%	27.2%	34.7%
その他(相談等を含む)	38.6%	30.3%	26.2%	23.6%	19.2%	18.1%	13.9%	15.5%

14 被害を受けたときの対応



- ◆ 「どうしていいのかわからない」という割合が小学校で増加している。早い段階から実際の被害例をもとにした「具体的な対処方法」などを指導する必要がある。
- ◆ 他者へ相談する重要性をどの学年に対しても徹底して指導していく必要がある。

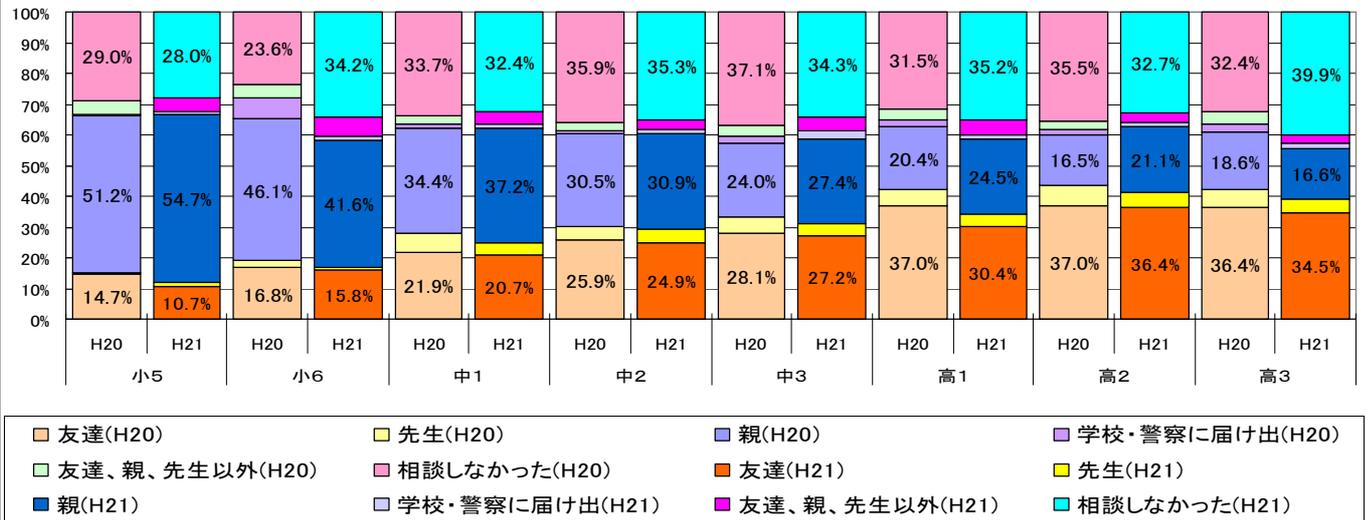
設問 15

被害を受けたとき、だれかに相談しましたか。(12で、「被害を受けたことがある」場合)

被害を受けたとき、誰に相談しましたか

設問15	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
友達	10.7%	15.8%	20.7%	24.9%	27.2%	30.4%	36.4%	34.5%
先生	1.2%	1.1%	4.3%	4.6%	3.9%	3.7%	5.1%	4.5%
親	54.7%	41.6%	37.2%	30.9%	27.4%	24.5%	21.1%	16.6%
学校・警察に届け出	0.8%	1.1%	1.4%	1.2%	2.7%	1.4%	1.2%	1.5%
友達、親、先生以外	4.5%	6.3%	4.0%	3.1%	4.4%	4.8%	3.5%	3.0%
相談しなかった	28.0%	34.2%	32.4%	35.3%	34.3%	35.2%	32.7%	39.9%

15 被害を受けたときの相談相手



- ◆ 各学校における指導によって、友人への相談から、保護者・先生などの「大人」へ相談する率が増加している。
- ◆ 依然として、誰にも相談しない割合が多く、多くの学年で30%を超えていることが大きな問題である。被害にあった場合「一人で抱え込ませないようにする」ために、日頃からの相談体制の確立や、「禁止・強制」の情報モラル指導に偏らないように留意する必要がある。

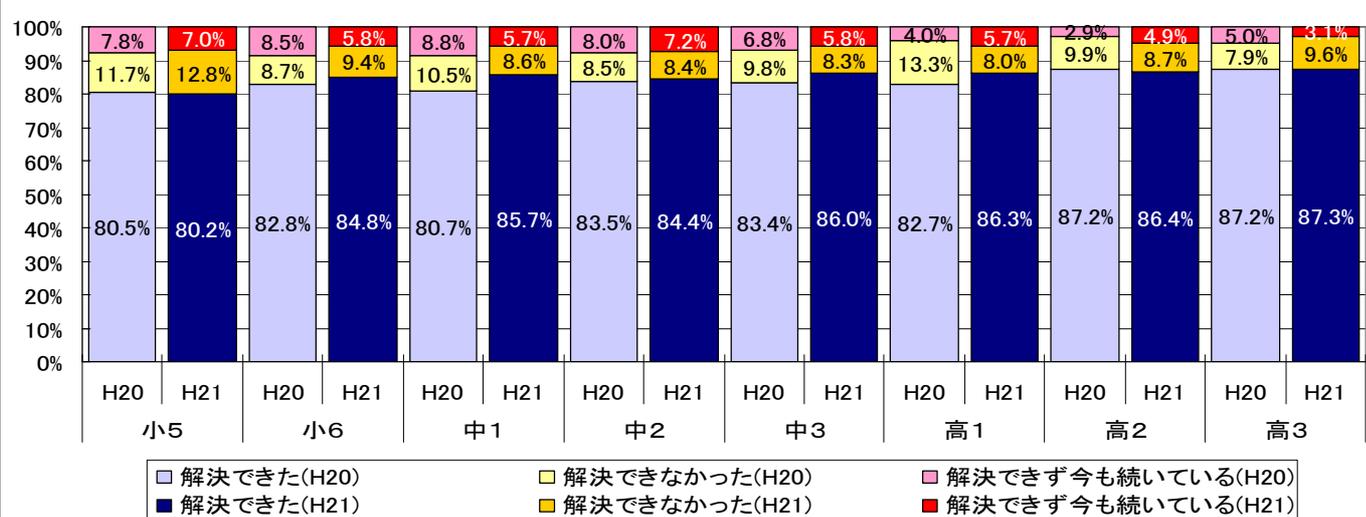
設問 16

解決しましたか。(12で、「被害を受けたことがある」場合)

被害を受けて、解決できましたか

設問16	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
解決できた	80.2%	84.8%	85.7%	84.4%	86.0%	86.3%	86.4%	87.3%
解決できなかった	12.8%	9.4%	8.6%	8.4%	8.3%	8.0%	8.7%	9.6%
解決できず今も続いている	7.0%	5.8%	5.7%	7.2%	5.8%	5.7%	4.9%	3.1%

16 被害の解決



- ◆ 被害の継続率はほぼ横ばいか、やや減少傾向であるが、小学生の被害継続率が依然として高い。
- ◆ 問題(被害)の早期発見とそれに対する早期対応を行うために、定期的なアンケート等、実態を的確に把握しておく必要がある。